

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	orange青山		
○保護者評価実施期間		2025年 12月 14日	～ 2025年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間		2025年 12月 15日	～ 2025年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間		2025年 12月 9日	～ 2025年 12月 9日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12	(回答数) 12
○事業者向け自己評価表作成日		2026年 1月 18日	

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性に基づいた具体的でわかりやすい支援助言が提供できていること	児童の実態や学校での様子を丁寧に把握した上で、学校側の意向や考えを尊重しながら、日常の教育活動の中で取り入れやすい形で支援内容や助言を提示するよう努めています。また、支援内容について学校と共に理解を図るために、説明の際に根拠や目的を丁寧に伝えることを意識しています。	支援内容がより効果的に活用されるよう、助言後の経過確認や振り返りの機会を意識的に設け、助言の実効性向上と学校現場での活用促進につながる体制強化を図ります。
2	児童の不安軽減や安心して過ごせる環境づくりに寄与していること	児童の特性理解に基づいた関わりや支援を行うことで、学校生活の中での不安軽減や過ごしやすさの向上に繋がる支援を実施しています。また、保護者の思いや学校の考えを相互に橋渡しすることで、児童を中心に据えた関係性づくりに努めています。	児童・保護者・学校それぞれにとって安心できる支援体制となるよう、情報共有方法や頻度のさらなる工夫を行い、児童の安心感や自己肯定感の向上により一層つながる支援の充実を図ります。
3	相談のしやすさや迅速・丁寧な対応など、信頼関係に基づく支援体制が整っていること	学校からの相談に対して速やかで丁寧な対応を心がけ、日程や支援内容についても可能な限り柔軟に対応することで、安心して相談できる関係づくりを大切にしています。	これまでの対応を維持・発展させるため、関係機関との連携体制を引き続き整備し、継続的で途切れのない支援提供ができるよう取り組みを進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	直接支援の見えづらさや支援内容の「見える化」の課題	間接支援が求められ、教員への指導が中心となるケースにおいて、支援員の関わりや支援効果が学校側から見えにくい場面があり、取り組み内容や支援の意図が十分に伝わりにくい場合があると考えています。	支援内容や支援意図、成果等について、学校や保護者へ適切に共有できるよう、説明方法や共有の仕組みを工夫し、支援の「見える化」をさらに進めています。
2	訪問支援員の負担を見据えた体制整備と継続性確保の課題	支援の質と柔軟な対応が高く評価されている一方で、支援員の担当範囲や支援内容の高度化に伴い、負担感とのバランスに配慮が必要であると認識しています。	支援員の負担軽減と支援の質の維持を両立するため、業務分担や連携体制の見直し、内部での情報共有の強化等に取り組み、持続可能な支援体制の構築を図ります。
3	家族支援・情報提供機会の更なる充実に向けた検討の必要性	現状でも保護者との連携は一定程度図られているものの、家族支援に関するプログラムや情報提供の仕組みについては、今後さらに充実の余地があると考えています。	保護者が相談しやすく学びを得られる機会の検討や、情報提供の方法・頻度の工夫等を進め、児童だけでなく保護者も含めた支援体制の充実を図っていきます。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	orange青山	公表日	2025年1月18日	回収数	11		
利用児童数		20名					
	チェック項目	(はい)	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	9 (82%)			2 (18%)		訪問支援の目的や児童の状態に応じて、必ずしも教具教材を多用しない支援も含まれることを丁寧に説明しつつ、必要な場面に応じて活用可能な教材や家庭・学校で使用できる支援ツールの紹介および提案が行えるよう努めてまいります。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	10 (91%)			1 (90%)		面接室の設置状況や利用可能な場所についての説明が十分に伝わらなかった可能性を踏まえ、今後は保護者・関係機関に対し、面接スペースや相談体制についてより分かりやすく周知できるよう説明の工夫を行ってまいります。だった可能性があります。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
適切な支援の提供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	8 保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	10 (91%)			1 (90%)		訪問支援の特性上、訪問先施設での支援内容や配慮が見えづらい場合があることを踏まえ、今後は支援後の共有をこれまで以上丁寧に行い、口頭説明や情報提供の機会を強化することで、支援内容や配慮事項について安心していただけるよう努めています。
保護者	12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	8 (73%)	1 (9%)		2 (18%)		これまで相談については速やかに対応してきましたが、支援員の配置状況等により連絡が取りづらいと感じられた可能性について真摯に受け止めています。今後は連絡手段や対応体制の整理・明確化を進め、保護者・関係機関の方々が安心して相談できる環境整備に努めています。
	15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています

自 へ の 説 明 等	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	18 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10 (91%)	1 (90%)				もちろん相談があった場合は、即時対応しているが、訪問支援員の不足により連絡のつきづらい状況などがあったかもしれません
	19 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	20 事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	21 保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	22 保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	23 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
非常 時 等 の 対 応	24 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	25 事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	26 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
満 足 度	27 こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています
	28 事業所の支援に満足していますか。	11 (100%)					この結果を維持できるよう努めています

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 2025年1月18日				
orange青山		利用児童数 20名		回収数 13施設		
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	13 (100%)			<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活中で、全ての支援助言を取り入れられるわけではないが、具体的な助言をいただけます ・一方的に意見を言われるのではなくこちらの考え方をしっかりと聞いていただけるので助言や説明を受け取りやすいです ・児童をよく見ておられ、交流の様子がよくわかります ・授業での取り組み、様子を共有していただけ有難いです ・児童をよく見られており、交流での様子がよくわかります 	今後も児童の実態や学校での状況を丁寧に把握し、上で、学校側の意向やお考えも尊重しながら、実践に取り入れやすい助言や具体的な支援提案が行えるよう努めています。また、支援内容や助言については、学校との共通理解を一層図ながら、分かりやすい説明に努めています。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	12 (92%)	1 (8%)		<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活中で、全ての支援助言を取り入れられるわけではないが、具体的な助言をいただけます ・一方的に意見を言われるのではなくこちらの考え方をしっかりと聞いていただけるので助言や説明を受け取りやすいです ・児童をよく見ておられ、交流の様子がよくわかります ・授業での取り組み、様子を共有していただけ有難いです ・助言の内容が適格です ・間接支援が主の児童だったので、直接支援が見れなかった(どちらともいえない) 	今後も専門性の向上に向けた研修機会の確保や事例検討等を通して、質の高い支援を継続できるよう取り組んでまいります。直接支援が見えにくいケースについても、支援内容や意図が伝わるよう、説明や共有の工夫を進めてまいります。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	13 (100%)			<p>質問・相談しやすいです お聞きしたことについても親身に相談に乗っていただけます</p>	引き続き、学校からの相談やご質問に対して速やかかつ丁寧に対応できる体制を維持し、安心してご相談いただける関係づくりに努めています。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	13 (100%)			<p>対象児童の育ちや過ごしやすさに繋がっています 本人にとって不安が減少したり、動きになっているようです 交流で過ごさせてあげたい想いがもったので、来ていただけでとてもありがたいです 本人にとって、不安が減り込みになっています 保護者の想いを伝えてくださったり、伝え返してくださったり、関係性の構築をしていただけました</p>	児童にとって安心して過ごせる環境づくりや不安の軽減につながる支援を継続して実施するとともに、学校および保護者との情報共有を大切にしながら、児童にとってより良い支援となるよう連携を一層強化してまいります。
5	事業所からの支援に満足していますか。	13 (100%)			<p>日時等臨機応変に対応してくださり有難いです 固定した時間に来てくれたり、子どもも楽しんでいます。子どもやるものもアップしている 3学期も引き続きよろしくお願ひいたします。</p>	今後も学校のご都合や児童の状況に配慮しながら柔軟な対応を心がけ、支援の質を維持・向上でできるよう努めています。引き続き継続的な支援体制を整え、安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります。
その他のご意見			ご意見を踏まえた対応			
<p>いつもありがとうございます。大変満足していますが、訪問支援員さんの負担が重くなっています。心配です</p> <p>いつも本学級の児童がお世話になっています。訪問によりあたたかい支援をうけております。研修もさせていただき、専門性に感服し、連携もし、児童と保護者が健やかに過ごしていけるよう支援していただけております。本当に感謝しかありません</p> <p>こんなにも手厚く支援していただけるとは思っていませんでした。自然学校にも2日間来ていただき、担任不在でも安心して過ごせたようです。日程をクリアできたのも訪問支援のおかげです。本当にいつもありがとうございます</p> <p>細かいことも相談でき有難いです</p>			<p>温かいお言葉やご評価をいただき、ありがとうございます。いただいたご意見を励みとし、引き続き訪問支援員の負担にも配慮しつつ、児童・学校・保護者の皆様が安心して過ごせるような支援体制の維持・充実に努めています。また、今後も必要に応じて相談しやすい環境づくりと丁寧な連携を進めてまいります。</p>			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	orange青山
------	----------

公表日 2025年1月18日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境制・整備運営・体制	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	○		支援の目的や児童の状態に応じて訪問先にある教具や環境を活かした支援を行い,必要時には家庭や学校でも使える教材を紹介している。	教材や支援ツールの具体例と意図を事前説明や記録の中により分かりやすく共有できるようにする。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		限られた人数の中でも児童の状態や学校側のニーズを踏まえて優先度を整理し,計画的に訪問日程を調整している。	訪問件数の増加に備え,訪問支援員の増員や業務分担の見直しにより無理のない配置と継続的な支援体制を整える。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		月次ミーティング等で訪問報告やケース検討を行い,支援内容や連携方法について職員全体で振り返る機会を設けている。	PDCAサイクルを明確にし,振り返り内容を記録して次年度計画や研修内容へ確実に反映できる仕組みを整える。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケート結果を全職員で共有し,評価の高い点と改善希望のあった点を整理して支援内容や説明方法の見直しに活かしている。	アンケート結果と具体的な改善内容との関連を分かりやすく示し,保護者へのフィードバックで「改善の見える化」を進める。
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングや個別面談を通じて現場職員からの意見を聞き取り,支援方法やマニュアル整備に反映している。	職員からの意見をテーマ別・優先度別に整理し,実行状況を振り返れる一覧管理の仕組みをつくる。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部評価の指摘事項を職員会議で共有し,具体的な改善項目を設定して計画的に取り組んでいる。	改善の進捗を定期的に確認し,成果や残った課題を次回評価や内部研修に生かす長期的なフォローアップを強化する。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		感覚統合やTEACCH,強度行動障害など事業所独自の専門研修を継続し,実践的な学びを現場で共有している。	訪問支援に特化したケース検討やロールプレイ等,実務に直結する研修機会を増やし新任でも安心して訪問できるようにする。
	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		初回面談や観察に加え,学校・保護者からの聞き取りを丁寧に行い,行動の背景や環境要因も含めてアセスメントしている。	アセスメント内容が訪問支援計画にどのように反映されているかを学校・保護者にも分かりやすく説明できるよう記録を工夫する。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童担当職員だけでなく管理者や他事業スタッフとも情報共有し,多角的な視点から支援方針を検討している。	話し合いの内容を会議録等で整理し,継続的な支援に生かされるよう記録と共有の方法を改善する。
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		事前打合せや授業観察を通じて学校側の困りごとや目標を丁寧に聞き取り,計画のねらいや支援内容に反映している。	計画書の文面に学校の意向がより分かりやすく表れるよう記載方法やフォーマットを工夫する。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		訪問支援計画を紙と電子データの双方で管理し,関係職員がいつでも確認できる体制を整えている。	計画の更新や見直しのタイミングを職員全体で共有し,変更点が現場支援に確実に反映されるよう管理办法を見直す。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		行動記録やチェックリストを用いて授業参加の様子や情緒の安定などを継続的に観察し,支援効果の変化を把握している。	標準化された評価ツールの活用場面を増やし,主観に偏らない評価と根拠に基づく支援の検証を進める。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに示された観察・助言・環境調整・代替手段の提案等を意識し,児童の実態に合わせて組み合わせた計画づくりを行っている。	ガイドライン項目と実際の支援記録との対応を整理し,第三者から見ても分かりやすい形で整備する。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎回の訪問前後に計画書を確認し,支援内容や目標を意識したうえで関わることを職員間で共有している。	現場で生じた工夫や変更点を計画書に反映するサイクルを明確にし,見直し体制を強化する。

関係機関や保護者との連携	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		訪問前に児童の最新状況や授業内容を確認し、役割分担や留意点を簡潔に共有するようにしている。	忙しい時間帯でも確実に打合せができるようチェックリストや簡易フォーマットの活用を検討する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後に可能な範囲でその日の様子や気づきを口頭で共有し、次回支援につながる振り返りを行っている。	人数や時間の制約で十分な振り返りができない場合があるため、支援員の増員や記録様式の簡素化で共有の質と量を高める。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		各園・学校の方針やクラスの雰囲気を尊重し、訪問支援が既存の支援に乗る形で関われるよう意識している。	理念の違いから支援方針に差が出る場合には、事前の丁寧な話し合いを重ね役割分担が明確になるよう調整する。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○		訪問ごとに支援記録を残し、児童の変化や支援の工夫点を蓄積して次の支援計画に生かしている。	記録の書き方にはらつきがあるため、共通フォーマットや記載例を整え、誰が見ても状況が分かる記録へ改善する。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		懇談やケース会議で目標の達成度や困りごとの変化を確認し、必要に応じて計画の修正を行っている。	モニタリングの実施時期や内容を台帳で一元管理し、見直し漏れが起らないよう体制を整える。
保護者等へ	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		できる限り日常的に関わっている支援員がサービス担当者会議に参加し、具体的な場面やエピソードを交えて情報提供している。	日程調整が難しい場合でも書面共有やオンライン参加などにより必要な情報量を確保できる方法を検討する。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		主治医・保健師・相談支援専門員等と情報共有を行い、必要に応じて第三者・四者での打合せを行うなど医療・福祉との連携を意識している。	連携内容を記録として残し、関わる職員全体で共有できるよう情報整理の方法を見直す。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前後の時期には保育所・こども園と小学校の橋渡し役として、特性や有効だった支援方法を具体的に引き継ぐよう努めている。	移行期の支援を体系的に整理したガイドを整備し、どの児童にも過不足のない引き継ぎが行えるよう標準化を進める。
	23	質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		事業所内研修の開催に加え外部講師を招いて専門的な知見を取り入れ、他機関職員にも参加してもらう形で地域全体の質向上に努めている。	職員自身が外部研修や研究会にも参加し最新の知見を持ち帰って共有できるよう、勤務調整や情報提供の方法を工夫する。
	24	（自立支援）協議会子こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		過去には自立支援協議会等に参加し、地域資源の把握や他機関とのネットワークづくりに取り組んできた。	現在は参加が途切れているため、日程調整や役割分担を見直し可能な範囲で再度参加できる体制づくりを検討する。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や電話・面談等を通じて家庭と学校・事業所それぞれで見えている児童の様子をこまめに共有し、認識のズレが生じないよう意識している。	忙しい保護者にも負担なく情報交換できるよう、オンラインツールの活用など新たな方法を検討する。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者向け懇談会や個別相談で行動理解や感覚特性について説明し、家庭での対応方法と一緒に考える機会を設けている。	継続的に参加できるペアレントトレーニングの形を検討し、希望者が参加しやすい日程や方法を模索する。
保護者等へ	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書を用いて制度や利用負担、訪問支援の位置づけを丁寧に説明するよう心がけている。	一度の説明では分かりにくい内容もあるため、書面の見直しや年度更新時の再説明など理解を深めていただける機会を増やす。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		新規訪問時には事業概要や訪問支援のねらいを資料で説明し、学校側の期待や不安を聞き取る時間を設けている。	年度途中の担任交代などでも情報が途切れないと、説明資料の共有方法や引継ぎの流れをさらに整備する。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成後に保護者との面談を行い、困りごとや希望、将来像などを丁寧に聞き取ったうえで支援目標を設定している。	児童本人の意向や気持ちもできる限り聞き取れるよう、年齢や発達段階に応じた聞き取り方法を工夫する。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		保育所等訪問支援計画を用いて目標・支援内容・訪問頻度を一緒に確認し、口頭説明と書面同意の両方を行うことを徹底している。	内容変更が生じた際にも修正点を分かりやすく説明し、改めて同意をいただく手順を明確にする。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		面談・電話・連絡帳など複数の窓口を設け、ちょっとした心配ごとでも相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。	相談内容と対応状況を体系的に整理し、複数職員で継続的に支えられる体制づくりを進める。

の説明等	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		個別支援や懇談会を通じて必要に応じて保護者同士をつなぐ声かけや情報提供を行っている。	父母会のニーズが大きくなれない現状を踏まえつつ、小規模な勉強会や座談会など柔軟な交流の形を検討する。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		連絡窓口や苦情解決担当者を明確にしパンフレット等で周知するとともに、日頃から「いつでもご相談ください」と声かけを行っている。	相談・苦情の内容と対応経過を記録し、再発防止やサービス向上に確実につながる仕組みを整える。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		事業所だよりやホームページを通じて活動の様子や行事予定、安全対策等の情報を定期的に発信している。	忙しい保護者にも届きやすい発信頻度と内容を検討し、写真や具体例を交えた分かりやすい情報提供に努める。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護規程に基づき書類の施錠管理や持ち出し制限を行い、研修で職員への周知を徹底している。	電子データの管理ルールやパスワード管理についても定期的に点検し、漏えい防止策を一層強化する。
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		話し方の速度や言葉の選び方、図や写真など視覚資料の活用を工夫し、相手の理解度に合わせた説明方法を意識している。	日本語以外の言語や文字情報が苦手な方への対応など、多様なコミュニケーション手段について事例を学びながら工夫する。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		訪問日以外でも電話やオンライン等で相談を受け付け、授業場面の工夫や対応案と一緒に検討するよう努めている。	相談窓口や連絡手段を改めて周知し、誰に連絡すればよいかが分かりやすい体制づくりを進める。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		支援終了後には可能な範囲で担任等と短時間の振り返りを行い、その日の様子や次回に向けた提案を共有している。	学期ごと等に定期的なカンファレンスの場を設け、長期的な目標や支援の方向性を話し合えるよう日程調整を工夫する。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	○		連絡帳や電話連絡、面談等を通じて学校での様子や支援のねらいをできるだけ具体的に保護者へ伝えるようにしている。	訪問頻度が高いケースでは要点をまとめたフィードバックシート等を活用し、保護者が振り返りやすい形で情報共有ができるよう検討する。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		訪問先施設とも個人情報保護の取り決めを共有し、資料の持ち運びや保管方法について相互に確認しながら運用している。	紙・電子双方の情報管理について定期的に合同で確認し合える機会を設け、より安全な運用体制を整える。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		学校側の立場や日々の苦労に配慮しつつ、否定ではなく「一緒に考える」スタンスで助言を行うことを大切にしている。	支援が長期化するケースでは改めて期待役割を確認し合い、負担感が一方に偏らないようコミュニケーションを図る。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等のマニュアルを整備し、年数回の避難訓練やシミュレーションを通じて職員に周知している。	訪問先で非常事態が起きた場合の連絡経路や役割分担についても再確認と訓練を行い、より実践的な対応力を高める。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき年次研修や防災訓練を計画的に実施し、児童の安全確保を最優先とした支援を職員全体で共有している。	実際のヒヤリハット事例を研修に取り入れ、訪問場面で起り得るリスクについても具体的にイメージできるようにする。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を用いて事例を職員間で共有し、原因分析と対策を話し合う場を設けている。	報告しやすい雰囲気づくりを心がけつつ、対策内容の実施状況をフォローリング化しない仕組みを整える。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上の虐待防止研修を実施し、制度面だけではなく支援者のストレスマネジメント等現場に即した内容も扱っている。	訪問支援という一対一の場だからこそ起り得るリスクについても具体的に考え、スーパービジョン等を通して職員が相談しやすい体制を強化する。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を検討する場合の基準と手順を事業所内で共有し、計画書には説明文を記載した上で保護者に丁寧に説明することを徹底している。	身体拘束が発生しないよう事前の環境調整や危険回避の工夫を重ねるとともに、万一実施した場合には検証会を行い再発防止策を明確にする。